



❶奥州湖眺望台から湖面と焼石連峰を望む ❷水位の低下で普段は湖水に沈む石淵ダム旧堤体が姿を見せた（9月20日撮影） ❸湖面ではカナディアンカヌーなど新たなレジャーも行われている

奥州遺産

―ときを越え

受け継がれるもの―

第110回

奥州湖

胆沢若柳

ブナの原生林が生い茂る栗駒国定公園。その山々から流れ出る清水が、胆沢ダムによって湖となっているのが奥州湖だ。平成24年に石淵ダムから胆沢ダムへ引き継がれ、生まれ変わったことで誕生した奥州湖は、それまでの石淵湖の9倍の貯水量を誇る。27年夏、降雨量は過去5年平均を大きく下回り、平成6年の渇水被害の再来かと思われたが、奥州湖は農地への必要水量を制限なく補給し続けた。また、東日本各地に水害をもたらした今年10月の台風19号の際には、総雨量155mmの雨水のほぼ全てを貯め込んだ。湖を囲む広葉樹の森が、春は新緑、秋は紅葉と湖を彩る。年間1万人を超える人が訪れ、ダムを散策しながら、山の上の眺望台から、ドライブしながらと、その美しい風景を楽しむ。水道用水や発電にも使われ、生活に欠かすことのできない奥州湖。今日も私たちの暮らしを守るため、命の水をたたえている。

広告